お客様と製造現場の架け橋になり、お客様の思いをカタチにする。



大川原祐花さん（1994年生まれ）

名古屋市立富田高校 出身
東海学園大学 健康栄養学部卒業

日進乳業株式会社

北名古屋市久地野牧野63
https://www.nisshinnyugyo.co.jp/

なるためには

●**必要資格** / 特になし
●**主な進路** / 高校卒業→大学に進学→スポーツ栄養、臨床栄養などを学ぶ→管理栄養士資格を取得→食品製造をおこなう企業に就職

――学生時代

「小中高とバスケ部に入って、高校ではキャプテンを任されました。部活づくしの学生時代です。チームワークの大切さを学びましたし、自分から動く姿勢が身についたと思います。高校卒業後、東海学園大学健康栄養学部に進学しました」

大学時代について教えてください。

「栄養計算の仕方、『スポーツ栄養』、病院食などの『臨床栄養』などを学びました。病気の症状や薬と食事の作用について、スポーツについてなど、学ぶ内容は食事以外のことも多く幅広かったです。ビタミンなどの栄養成分、カロリー計算など、学んだ知識がいまおこなっている食品製造の流れのなかでいかされる場面もあります。3年次には、病院と社員食堂へ実習に行きました。病院実習では病院食の調理などを経験させてもらい、社員食堂では麺類や丼ものなどの大量調理を経験しました」

就職先を選んだ経緯は？

「食べることが好きだったので、食品関係に絞って就活をおこないました。説明会で印象的だったのが、アイスクリームやグミなどの製造販売をおこなう日進乳業。馴染みのある製品を製造していることや、熱い思いを語る社長の姿が決め手です。国家試験に合格して管理栄養士資格を取得し、大学卒業後、日進乳業に就職しました」

――仕事について

「1年目は糖衣工場に配属され、グミを何層もコーティングしていく作業を経験しました。2年目からは営業部で、現場での経験をいかして生産管理などをおこなっています」



仕事内容を簡単に教えてください。

「お客様であるメーカーと製造現場の架け橋になり、お客様の思いをカタチにすることが私の仕事です。お客様からは、『この成分は絶対に入れたい』『こういう形状のものにしたい』といった要望がくるので、それを当社の生産技術とすり合わせていきます。このとき、いかに細かく製品のイメージを共有できるかが重要です。実現が難しいものに関しては、ほかの案を提案し、イメージが固まったあとは完成に向けて試作を繰り返します」

――やりがい

「携わった製品が店頭に並んでいる様子を見たときにやりがいを感じます。それを多くの方に手に取ってもらえることもうれしいですね。いろいろな種類の注文、納期などを製造現場と調整し、うまくまとまったときは達成感があります。お客様と現場の真ん中にいる立場としては、双方からの『ありがとう』という感謝の言葉にもやりがいを感じます」

――メッセージ

「普段から『食』に興味をもつことが大切だと思います。コンビニやスーパーで気になっている商品の裏面表示を見てみたりと、常に好奇心をもってアンテナを張る姿勢は仕事でも役に立ちます。あとは私も常に意識していますが、あいさつと笑顔は社会に出てからも大切ですよ。日頃から意識して生活してください。高校時代は、いまの生活を全力で楽しんでほしいです。自分にとっては、それがバスケ部の活動でした。部活での経験は、私を大きく成長させてくれたと思います」

ありがとうございました。



自分年表

18歳
部活に熱中した高校生活。卒業後、東海学園大学に進学。

↓

22歳
国家試験に合格し、管理栄養士資格を取得。卒業後、日進乳業に就職。

↓

27歳
生産技術・製造現場と連携し、お客様の要望を実現できるよう日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

http://amb100search.com

ITの力を使って、お客様の「もっとこうしたい」という願いを叶える。



榊原祥吾さん（1986年生まれ）
名古屋市立北高校 出身
中部大学 経営情報学部卒業

株式会社システムリサーチ
名古屋市中村区岩塚本通2-12
https://www.sr-net.co.jp/

なるためには

●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→大学に進学→さまざまな分野のソフトウエア開発をおこなうIT関係の企業に就職→システムエンジニア

――学生時代

「サッカー部に入り、部活に熱中した高校生活でした。部活を通し、協調性やチームとしての動き方を学ぶことができたと思います。将来のビジョンは特になく、大学に入ってから考えようという感じでした。高校卒業後、中部大学経営情報学部に進学しました」

大学時代について教えてください。

「主に経営や会計、コンピュータを戦略的に活用する技術などを学びました。マイクロソフトが提供するアプリケーションのプログラミング言語であるVBA、エクセルのマクロについて学んだことは、いまの仕事にもいかされています。また、大学時代のアルバイト先では、年齢問わずいろいろな人に出会いました。刺激をたくさんもらいましたし、人とのつながりの大切さを感じることができました」

――仕事について

「大学卒業後、いろいろな分野のソフトウエア開発をおこなうシステムリサーチに就職しました。最初に学んだのはプログラミングについて。1から.NETやCOBOLなどのプログラミング言語について学んでいったので覚えることが多くて大変でした。入社当初、よく先輩からは『10分考えてもわからないことはすぐに聞け』と言われました。先輩に聞けばすぐに解決する問題も、ひとりで何時間も抱え込んでしまうと全体の作業が遅れてしまいますからね」

現在の仕事内容を教えてください。

「ITの力を使って、お客様の困りごとを解決したり、『もっとこうしたい』という願いを叶えることが私たちシステムエンジニアの仕事です。お客様から届く要望を元にシステムを設計し、それを元にプログラミングして正しく動作するかの検証を繰り返します。私は、自動車ディーラーの顧客管理やお客様にDMを送るシステムを主に担当しています。1から新しくシステムを作ることもありますし、もともとあるシステムを改善したり不具合がある箇所を修正したりもします」



――やりがい

「この仕事は、システムを作って検証する、トライアンドエラーの繰り返し。すぐにうまくいくモノもあれば、時間のかかるモノもあります。その検証がうまくいったときは達成感があります。技術も知識も、人間性まで本当にすばらしい先輩がいるんです。その先輩のような、お客様からも後輩からも『あの人に相談したら何でも解決してくれる』と言われるようなシステムエンジニアが目標です」

――メッセージ

「スケジュール管理や各種資料の作成など、社会に出るとエクセルをよく使います。高校時代からエクセルの勉強をしておいて損はしないと思いますよ。あとは、この仕事は常に情報がアップデートしていくのでわからないことを調べていくことが大切。自分から調べる習慣も身につけておいてください。あと、私は高校時代に明確なビジョンをもてずにいました。みなさんは、興味のあることを見つけて、人生プランを早めに考えておくことをおすすめします」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 サッカー部に所属し、部活に熱中した高校時代。卒業後、中部大学へ。

↓

22歳 経営や会計について学ぶ。卒業後、システムリサーチに就職。

↓

35歳 トライアンドエラーを繰り返し、お客様の要望に応えるシステムを作り上げる。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

http://amb100search.com

お客様のお困りごとを解決する窓口。顔が見えないからこそ、常に笑顔で。



増田ゆきなさん（2002年生まれ）
享栄高校 出身

シェアリングテクノロジー株式会社
名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋19F
https://www.sharing-tech.co.jp/

なるためには
●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→暮らしのお困りごとを対象としたWEB事業を展開する企業に就職→電話受付事務

――学生時代

「物心ついたころから絵を描くことが大好きで、趣味に没頭した学生生活でした。高校時代は、自分で描いたイラストを缶バッチや漫画などに商品化したりもしました。シェアリングテクノロジーを知ったのは学校の求人票がきっかけです。そこに載っていた、会議室の壁画やおしゃれなイラストに囲まれるオフィスに一目惚れ。会社見学に参加し、すぐに『ここで働きたい！』という思いが固まりました」

――仕事について

「入社後、ビジネスマナーや話し方の練習、敬語の使い方などの研修を受けました。その後、すぐにお客様対応を任されるようになりました。当社は、暮らしのお困りごとを解決する『生活110番』などのWEBサービスを展開しています。電話でヒアリングするのは、名前などの個人情報、お困りごとは何か、いつまでに解決したいかなど。その情報から、お客様のご要望と地域に対応できる最適な業者を全国5000社以上の中からご紹介します」

対応するお困りごとの種類は？

「『ガラスが割れた』『家に虫が出たから駆除してほしい』『車の中に閉じ込められてしまった』など、幅広いジャンルのお問い合わせがあります。多いときには1日100件を超える電話対応をすることもありますよ。入社当初は、これまで電話対応の経験はほとんどなかったので、電話に苦手意識がありました。あとは、私の地声の声量が大きくて、高圧的に聞こえてしまうところがありました。改善に努め、今では、以前よりも柔らかくお話することができるようになりました。最初は、ガラス交換や網戸の張り替えなどのヒアリング項目が少ない簡単なジャンルを担当します。入社して3か月頃には、すべてのお困りごとの対応ができるようになりました」



心がけていることは？

「電話口でも常に笑顔でいることです。顔の見えないやりとりだからこそ、困っているお客様に安心していただけるような対応をしたいと思っています。なかには緊急を要するようなお困りごとを抱えた方もいるので、臨機応変に声の温度感を変えることで、お客様の心に寄り添えるよう心がけています」

――やりがい

「お客様からアンケートで、『ありがとうございました！』という感謝の言葉や、『聞きとりやすかった』『助かりました』などお褒めの言葉をいただいたときにやりがいを感じます。お困りごとの解決に自分が携われたんだなと改めて実感します」

――メッセージ

「電話をしながら相談内容をパソコンでまとめないといけないので、タイピング技術が必要になります。高校時代にパソコン関係の検定を受けておいてよかったです。そのほかの知識は入社後に学んでいきます。学生時代は好きなことしかやっていなかったので、OLとして働くいまの自分はまったく想像できませんでした。みなさんにも、想像できないことがこの先の人生でたくさん起きると思います。たくさんのことに挑戦して、今を全力で楽しんでほしいです」

ありがとうございました。



自分年表

17歳 趣味である絵を描くことに没頭した青春時代。

↓

18歳 オフィスに一目惚れし、シェアリングテクノロジーに入社を決める。

↓

20歳 お客様に寄り添った対応を心がけ、お困りごとを解決。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

人と人とのつながりで たくさんの笑顔を生み出す仕事。



星野弘明さん（1992年生まれ）
名古屋経済大学市邨高校 出身
愛知学院大学 心身科学部心理学科（現：心理学部）卒業

有限会社ザットインターナショナル
名古屋市千種区今池3-37-5
https://www.zat.co.jp/

なるためには
●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、心理学を学ぶ→イベント制作などをおこなう企業に就職→営業企画

――学生時代

「中学のときからアルペンスキー部に所属し、部活が中心の青春時代でした。愛知県代表として、インターハイや国体への出場経験もあります。昔から心理学に興味があり、愛知学院大学の心身科学部心理学科（現在の心理学部）に進学しました」

大学時代について教えてください。

「講義のなかで印象に残っているのは、客観視という言葉。一歩引いた目で全体を見ることの大切さを学びました。自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れながらプロジェクトなどを進める考え方は、社会人になったいまでも役に立っています。大学には本当にいろいろなタイプの人が集まってきていたので、視野が広がりましたし楽しい思い出も多いですね」

――仕事について

「現在は、学生時代にアルバイトをしていた、さまざまなイベント制作などをおこなうザットインターナショナルで働いています。みんなが笑顔になれるイベントづくりが私の仕事。具体的には、キャラクターショー企画から、県からの委託事業、キャラクターのSNSアカウント運営、着ぐるみの製作・運営まで多種多様です。クライアントからお仕事をいただいて、イベントが問題なく終わることが成功。アルバイトのころは無事に終わることだけを考えていましたが、いまはプラスαでその仕事をこれからどう広げていくかも考えるようになりました」



心がけていることは？

「この仕事の大変なところは、その場その状況にならないと問題点が見えてこないこと。その場でどう改善していくのか、解決策を瞬時に見出して選択する必要があります。この業界は人対人の仕事ですし、大きなイベントであれば何十人ものスタッフと協力して進めることになるので、常に臨機応変な対応を心がけています。あとは、人とのつながりを私は一番大切にしています。アルバイト時代からずっと関係が続いているクライアントさんもいて、その人たちが私を頼ってくれるのはうれしいですね。そういう人たちの信頼を裏切らないよう、全力で頑張ろうと思っています」

――やりがい

「やりがいを感じるのは、イベントが無事に終了し、撤去が終わって会社で報告書を作っているときですね。『やっと終わった！』という気持ちになります。最終的には、請求書を発行するときが完了のタイミング。ザ営業って感じですけど、そこが一番達成感を感じます（笑）。人を楽しませてみんなの笑顔を作れる仕事ってなかなかないですよね。そこがこの仕事の大きな魅力だと思って働いています」

――メッセージ

「もし、まだ将来が見えていないなら、見えないなりにがむしゃらにいまを楽しんでほしいです。スポーツが好きならスポーツを、文学が好きなら文学を。そのなかで見つかる道がきっとあると思います。もし、すでに好きなことが見つかっているなら、誰かに言われて決めた道を進むのは絶対にやめてほしいです。後悔のないように、進むべき道は自分で選択してください！」

ありがとうございました。



自分年表
18歳 部活動に打ち込む日々を送る。高校卒業後、愛知学院大学へ。
↓
24歳 学生時代にアルバイトをしていたザットインターナショナルに入社。
↓
30歳 人とのつながりを大切にし、さまざまなイベントの企画・運営をおこなう。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

ヘアスタイルを通して、お客様を笑顔にすることが美容師の仕事。



谷澤朋佳さん（1999年生まれ）

鳴海高校 出身
中部美容専門学校 卒業

hair salon necco
名古屋市千種区池下町2-17 セピア217 2F
https://salon-necco.com/

なるためには

●**必要資格** / 美容師免許
●**主な進路** / 高校卒業→美容関係の専門学校に進学→国家試験に合格し、美容師免許を取得→サロンに就職→アシスタントを経てスタイリスト

――学生時代

「テニス部の活動が高校時代の思い出です。初心者だったのですが、負けず嫌いな性格で部活以外にもテニススクールに通ってレギュラーをめざして3年間練習しました。結果、レギュラーになれたことは自信につながっています。美容師をめざしはじめたのは、幼稚園のころ。七五三の撮影のために、母の友人にヘアメイクをしてもらったことがきっかけです。とてもうれしかったことを覚えています。高校卒業後、中部美容専門学校に進学しました」

専門時代について教えてください。

「国家試験対策のロッドを巻く宿題が毎日あって大変な面もありましたが、そのおかげで国家試験が近づいてきても自信をもって試験対策に取り組むことができました。イベントも充実していて、オープンキャンパスのヘアショーでは、ヘアセットやメイクを担当したり、モデルとしても出させてもらいました。みんなでひとつの作品を作れたことは、いい経験であり大切な思い出です」

――仕事について

「専門学校卒業後、neccoに就職しました。お店の雰囲気が好きで、コーヒーを一杯ずつドリップして提供していたり、ヘア以外にもこだわりがあるところに惹かれました。1年目は、シャンプーやヘッドスパから担当していきます。ほかにも、お客様への話し方やお店の雰囲気に合った接客など、細かい気づかいなどを先輩から学びました」



現在の仕事内容を教えてください。

「ヘアスタイルを通して、お客様を笑顔にすることが私たちの仕事。いまはアシスタントとして、シャンプー、ヘッドスパ、カラー、ドリンク提供など、先輩スタイリストのサポートを主に担当しています。パーマとカットは、営業後にモデルさんで練習しています。それぞれの試験をクリアすると、スタイリストとしてデビューすることができます」

心がけていることは？

「まだできることが少なく、シャンプーやヘッドスパがお客様とふれあえる貴重な時間です。そこで喜んでもらえるように、専門学校で学んだ手の動きや力加減を意識しておこなっています」

――やりがい

「お客様から『シャンプーが気持ちよかったよ！』『ヘッドスパもまたお願いしたいな』など、直接お褒めの言葉をもらえることがうれしいです。将来は、成人式や卒業式、初めてのカラーなど、人生の節目で関わることができ、お客様と一緒に成長していけるような美容師になりたいです」

――メッセージ

「国家試験に合格し、**美容師免許**を取得する必要があります。学校選びは、就活に手厚いケアをしてくれるか、楽しいイベントがあるかを見るといいですよ。中部美容は美容組合に入っているので、よくガイダンスが開かれたり、学校専用の求人サイトがあったりして就活のサポートが充実していました。先生が履歴書の書き方なども親身に相談に乗ってくれたので心強かったです。高校時代は、勉強はもちろんですが、今を楽しむことも大事。たくさん遊んで高校生活を満喫してください！」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 テニス部に所属し、レギュラーをめざして努力の毎日。中部美容に進学。

↓

20歳 美容師としての基礎を学ぶ。卒業後、hair salon neccoに就職。

↓

22歳 日々練習に取り組み、人生の節目に関われるような美容師をめざす。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

http://amb100search.com



YOUTH ユースフラッシュ FLASH

名古屋出身の有名人インタビュー

愛知みずほ大学瑞穂高校出身のボートレーサー、堀本翔太さんを独占取材！

父親の姿を追いかけ、ボートレーサーという職業を選んだ堀本選手。数年前までは普通の高校生だった堀本選手が、どんな経験を経て現在の活躍にいたったのか？　そして、厳しいプロの世界での挫折やボートレーサーの魅力を聞いてきました。

――高校時代

「高校時代を振り返って思い出すことは、担任の先生にすごくお世話になったということです。ダメなことはダメとはっきり言う方で、厳しくて優しい恩師との出会いは、いまの自分に大きな影響を与えてくれたと思います。僕のボートレーサーという夢に対しても常に後押しをしてくれました。高校時代の僕は、本当にどこにでもいるような普通の高校生。恩師と出会ったことで、ボートレーサーという夢に向かって、迷わずに突き進むことができたと思います」

ボートレーサーをめざしたきっかけを教えてください。

「高校2年のときです。ボートレース場付近で遊んでいて、レース場の外から何気なくレースを見て衝撃を受けたことがきっかけです。フェンス越しに見えたかっこよく走っているレーサーは、いつも無口で厳しい僕の父でした。高校時代の僕は、厳しい父のことを正直あまり好きではなかったです。ですが、そんな父が水上でかっこよくレースをする姿を見たときに、『父のようになりたい』と思っている自分がいました。そして、いつしか父を超えたいと思うようにもなり、ボートレーサーになったいまでも、父の後ろ姿を追いかけています」

ボートレーサーになりたいと言ったときのお父さんの反応は？

「僕の父は、簡単に人のことを褒めるタイプではありません。『お前は絶対にボートレーサーになれない』とずっと言われ続けてきました(笑)。でも、そのおかげで頑張ることができたと思っています。やっぱり簡単に務まる仕事ではないので、『厳しい世界なんだぞ』ということを教えてくれた父には感謝をしています。実際に養成所を卒業してプロになることができたときは、『いままでよく頑張ったな』と褒めてくれました」

――ボートレーサーとして

「外から見ているだけではわからないことがたくさんありました。たとえば、レースを走るまでの準備。エンジンを組み立てたり、プロペラを調整したり、ボートに乗って操縦するだけでなく、レースに臨むうえで考えることが非常にたくさんあります。また、コミュニケーション能力の大切さも感じました。先輩レーサーからは、操縦技術やレースに向かう姿勢、考え方を常に学んでいます。ボートレーサーは、みんながライバルであり一緒に切磋琢磨する仲間でもあるんです。あとは、ボートレース界全体で業界を盛り上げていこうという共通の目標がありますが、ひとりで孤独に闘うのではなく、いろいろな人と関わりながら自身を成長させることのできる仕事だと思います」

ボートレーサーの活動内容を教えてください。

「レース期間中は宿舎で過ごし、自分のレースに向けてエンジンやプロペラの調整をおこないます。その日の気温や気圧、湿度などを考えて、自分の走行スタイルに合うよう微調整を繰り返します。あとはレースのイメージを練っていきます。僕の場合は、実際のレースと同じように細かく脳内でイメージをしておくことで、レースでの失敗を最小限に抑えられるように工夫しています。ボートレースは、6艇のボートで600mのコースを3周して順位を競います。その順位は、100分1秒が勝敗を分ける世界。メンタル面など、ほんの少しのことで大きな差が生まれるので、レース前は常に細心の注意を払い集中力を高めていきます」



ボートレーサーとして、日々心がけていることは？

「ボートレーサーは体重制限があるため、体重管理を意識しています。特に自分は意識していないと軽くなりすぎてしまうので、食生活にはこだわっています。また筋トレをして、質のいい体づくりを意識しています。あとこれはスポーツ選手として仕方のないことですが、成績がいいときは褒めてもらえますが、成績が悪いときは聞きたくない言葉が耳に入ってくることもあります。そういうときは、精神的にも強くいるように意識しています。ネガティブにならず、逆にその状況をポジティブなパワーに変えるくらいの意識をもって過ごしています」

見る側から、見られる側になったことを実感。これからは自分のためだけでなく、お客様のためにいいレースを繰り広げたい。

挫折を経験したことは？

「プロデビュー戦で、レース中にボートを転覆させてしまったことです…。当時はとても落ち込んでいたのですが、そのとき一緒に走った先輩レーサーからの励ましの言葉でなんとか立ち直ることができました。そして、悔しいのは自分だけでなく舟券を買ってくれたお客様も同じということ、自分のためだけでなくお客様のためにも走るという、ボートレーサーの根本的な意識を学ぶことができました。その言葉を先輩から言われたとき、改めて自分はプロのボートレーサーになったんだと実感しました」

――やりがい

「やっぱり、みなさんからの声援がやりがいにつながっています。僕の知人はもちろん、まったく知らない人も自分のことを応援してくれるって、何気にすごいことだと思いますよ。見られる側、応援される側に立てているということは、とてもうれしいことですね。その分、時にはお客様からの厳しいお言葉をもらうこともありますが、そういう言葉をもらえることですら、ありがたいことだと考えています」

ボートレーサーの魅力とは？

「レースで1位になれたときの感動は忘れられません！　ちょっと前までは本当に普通の高校生だった自分が、真剣勝負に勝って1位になれるんだって思うとワクワクしますよ。とにかく刺激的で、高いモチベーションを保って充実した毎日を過ごすことができています。自分の成長によって成績が変わるので、常に向上心をもって生きていることも実感できます。大人になっても本気になれる仕事に出会えてよかったです」



――ボートレーサーになるためには

「日本唯一の養成機関である『ボートレーサー養成所』に入所し、1年間の訓練を受けることになります。そして国家資格を取得してプロのボートレーサーとしてデビューすることができます。厳しい養成所の生活を通して、ボートの操縦やエンジンやプロペラの調整以外に、精神的にも成長することができたと思います」

最後に、高校生へのメッセージをお願いします。

「学生のうちにしかできないことがたくさんあると思うので、友達と遊んでいっぱい思い出を作ってください。進路に迷ってる人は、自分の気持ちに正直になって、『これをやりたい！』と心から思える道に進んでほしいです。高校時代の僕がそうしたように、みなさんも自分の夢は自分の力で切り拓いていってください。そうすることで、それぞれのすてきな未来がきっと待っていると思いますよ」

ありがとうございました。

堀本翔太さん(2000年生まれ)
愛知みずほ大学瑞穂高校 出身



17歳		偶然レースを走る父親の姿を見て、ボートレーサーという夢を抱く。
18歳	高校3年生	ボートレーサー養成所に入所。ボートの操縦技術、レースに臨む精神面を学ぶ。
20歳		養成所を卒業し、プロデビュー。お客様からの声援がやりがいに。

※モーターボート競走法により、未成年者の舟券購入および譲り受けはできません。ボートレース場には、大人の同伴があればご入場いただけます。

服だけでなく夢を売ることが、セレクトショップの仕事。



山田真一さん（1982年生まれ）
名古屋西高校 出身
南山大学 経済学部卒業

Panio
名古屋市中区千代田3-19-12久野ビル1階
https://www.panio2014.com/

なるためには

●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、経済について学ぶ→セレクトショップに勤務→独立して自身のセレクトショップをオープン

――学生時代

「ファッションに興味があり、高校生のときもいろいろなジャンルの服装を楽しんでいました。将来は自分のお店をもちたいと思っていたので、大学時代は、個人経営のセレクトショップでアルバイトに励む日々。いろいろな人に出会って世界が広がりましたし、販売スキルを磨くことができました。大学卒業後は、自動車部品の会社に入社して営業として働きました。社会人としての心構えや覚悟、社会常識などを知らずに自分のお店を開きたくないと思っていたからです」

――仕事について

「自動車部品の会社を退社し、大学時代にアルバイトをしていたお店に戻って、接客の仕方などを一から勉強しなおしました。年に2回ほど海外へ買い付けに行っていたので、服のセレクトの仕方だけでなく語学力や交渉力も身につきました。お客さんが何を求めているかを意識しながら、商品をセレクトする目が養われたと思います」

その後、自身のお店をオープンさせたのですね？

「お世話になったセレクトショップで約10年働いて独立しました。自身のセレクトショップ『Panio（パニオ）』をオープンして丸8年です。最初は苦労の連続でしたが、当時はまだ珍しかったインスタグラムを使った商品宣伝を始めたり、オンライン販売を始めたりすることで風向きが変わったと思います。



SNSを通して多くのお客さんが来てくれるようになりました」

仕事内容を簡単に教えてください。

「レディース、メンズ問わず、国内・海外のブランドの商品をセレクトして販売しています。自分でオリジナル商品を作ったり、デザインを引き受けたりもしますし、幅広くなんでもやっていますよ。セレクトショップって、夢を語れる仕事だと僕は思うんです。前に働いていたお店のオーナーに、『セレクトショップは、ただ服を売るだけでなく、夢を売る仕事だ』と言われたことがあります。その言葉をいまも胸に刻んで働いています」

心がけていることは？

「一番重要なのは目利きです。それは、売れるか売れないかということよりも、僕が好きか嫌いかという感性を大事にしています。自分が好きで着られる服じゃないと、『かっこいいですよ』って自信をもってお客さんにすすめられないですからね」

――やりがい

「前の職場の常連さんや、学生時代にDJとして活動して広がった交友関係はいまでも続いています。お店のイベントを開催するときは助けてもらったりしていますし、そういった人とのつながりが財産になっています。ただ服を販売しているだけではそういう関係を築けないと思うので、服だけでなく音楽などプラスαのいろいろな文化を通してお客さんと交流していくことがセレクトショップには大切だと思います」

――メッセージ

「高校生のみなさんには、大きな夢をもってほしいです。そして、それを語っていってください。僕も夢を追って生きていきます！」

ありがとうございました。



自分年表

24歳 セレクトショップで働きながら、接客や買い付けなどを学ぶ。
↓
31歳 独立してセレクトショップPanioをオープンする。
↓
39歳 お店を通して出会ったお客さんや、音楽を通して築いた人間関係が財産に。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

「おいしい！」と言ってもらえるように、安心安全で高品質なえびせんべいを作る。



稲垣沙彩さん（1997年生まれ）
千種高校 出身
三重大学 生物資源学部卒業

桂新堂株式会社
名古屋市熱田区金山町1-5-4
https://keishindo-shop.com/

なるためには
●**必要資格**／特になし
●**主な進路**／高校卒業→大学に進学→食品関係のことを学ぶ→食品製造をおこなう企業に就職→製造現場を経験→生産管理

――学生時代

「学祭が有名な学校だったので、学祭の実行委員会に入って運営に携わったことが思い出に残っています。充実した高校生活でした。いろいろな組織やスタッフと協力して学祭を作り上げていくなかで、担当者への説明の仕方やスタッフへの指示の出し方など、まわりの人との連携のとり方を学ぶことができたと思います。それは、社会人になったいまも大事にしています。高校卒業後は三重大学に進学しました」

大学時代について教えてください。

「海洋生物資源学科だったこともあり、実習でちくわや鰹の缶詰を作ったりと、食品関係のことを学びました。ほかには微生物についての研究もしました。食品業界に興味をもったのは、大学での学びが大きいです。食品の扱い方や食中毒についてなど、衛生管理について学んだこともいまの仕事にいきています。大学卒業後、えびせんべいの製造・販売をおこなう桂新堂に就職しました」

――仕事について

「入社当初は、焼成工程、材料を撹拌（かくはん）する工程、包装工程などの現場作業を経験しました。当社の製品がどのような工程で製造されているかを知ることで、現場を管理するうえで必要なことを学んでいきます」

現在の仕事内容を教えてください。

「食べた人に『おいしい！』と言ってもらえるように、安心安全で高品質な『えびせんべい』を日々作っています。私は生産管理を担当。現場スタッフにしっかりと役割をもたせ、工程の配置や生産予定に合わせた作業時間の配分を考えています。ほかにも、看板を見やすくしたり現場を整頓するなどの改善活動も大切な仕事。製造現場での経験をいかし、スタッフが働きやすく、生産性も上がる作業環境へと常に改善をしていきます」



働くうえで心がけていることは？

「多くのスタッフと関わる仕事なので、みなさんが楽しく働いてもらえるような指示出しを心がけています。『これやって。あれやって』とお願いするだけではだめ。『ありがとう』とか『いつも助かってる』といった感謝の気持ちを伝える声かけも意識しています」

――やりがい

「作業環境を改善し、スタッフから『やりやすくなった。ありがとう』という声をもらえるとうれしいです。家族も『桂新堂のえびせんべいが好き』って言ってくれますし、友達から『手土産でもらったよ』という話を聞くこともあります。そういった声がやりがいにつながっています」

――メッセージ

「特に必須となる資格や専門知識はありません。知識よりもチームワークのほうが重要。私は大学生のときによさこいをやっていたので、そこでコミュニケーション力や集団で活動するときに大切なことを学びました。みなさんもいろいろな活動を通して協調性などを養っておいてください。学生時代は、そのときにしかできないことがたくさんあるはずです。何がきっかけになるかも、何が将来の役に立つかもわからないので、いろいろなことを経験してほしいです」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 学祭の実行委員を経験し、組織の動きを学ぶ。卒業後、三重大学へ。

↓

22歳 食品加工や衛生管理について学ぶ。桂新堂に就職。

↓

24歳 製造現場を経て、現在は生産管理を担当。スタッフが働きやすい環境を整える。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

人と人の架け橋になり、モデルやタレントの夢を実現。



榊原健太さん（1982年生まれ）
名古屋大谷高校 出身
愛知淑徳大学 コミュニケーション学部（現：ビジネス学部）卒業

株式会社セントラルジャパン
名古屋市中区栄3-14-7 RICCO SAKAE 3F
https://central-j.com/

なるためには
●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→大学に進学→呉服販売会社に就職し、北陸配属になる→友人の紹介で、地元のモデルエージェンシーにUターン転職

――学生時代

「体操部に入り、部活中心の毎日でした。私は高校から始めた初心者でしたが、技の上達がうれしくて、『これができたら次はこれだ』と好奇心の赴くままに熱中。独学で本を読んで勉強したり、体操歴の長い仲間に教わったりもしました。新人体育大会の名南支部予選優勝や愛知淑徳大学の指定校推薦枠をいただく結果にもつながりました」

大学時代について教えてください。

「大学祭実行委員会の衛生管理をおこなう渉内局に入り、3年次には局長に。企画や運営、組織のマネジメント、協賛依頼などのすべてが人生勉強になり、交友関係はいまでも続いています。テニスサークルに所属し、恋愛もしてキャンパスライフを謳歌しながら、友人と一緒に毎週末の路上ライブも。そこで身についた度胸や表現力も自分の財産ですね」

――仕事について

「合同企業説明会で元気な社員の人たちに惹かれ、呉服販売会社に就職。北陸支部に配属となり、生まれ育った名古屋を離れ金沢で人生初の一人暮らしをしました。呉服は高価な買い物なので、営業力とメンタルを鍛えられました。2年半が過ぎ、次期店長候補になったころ会社が突然倒産…。ドッキリかと思いましたが、年齢も若かったので次の道に進もうと友人に相談したときに『うちの会社を受けてみたら?』と誘われ、未知であり無知の世界だったモデル業界へ入りました」



現在の仕事内容を教えてください。

「名古屋オフィスには総勢500名のモデルやタレントが所属し、3歳から80代まで幅広い年代が活躍しています。マネージャーである私の仕事は、スカウトからスケジュール管理、現場での立ち会い、打ち合わせ、資料撮り、人材育成、モチベーション向上までさまざま。テレビ局や広告代理店、制作プロダクション、PR会社、メーカーといったクライアントへの営業も重要な仕事です」

――やりがい

「やりたいことの明確なビジョンを掲げて入社したわけではないですが、思い返せば『人の架け橋になりたい』という思いはずっと変わらず、いまの自分の夢でもあります。私自身は何もできないけれど、私の紹介で困っている人を助けられるかもしれない。ある程度キャリアを積んだモデルやタレントには『どんな仕事がしたいか』を聞き、夢に近づくサポートを心がけています。私たちの事業はすべて人で成り立ち、個性も豊か。その架け橋を体現できるマネージャーは大変ですが、楽しく充実していますね。人間なので感情の波があるなかで、みんながポジティブな状態になるために、まず自分からプラス思考な言葉や行動を意識しています」

――メッセージ

「縁の下の力持ちとなるマネージャーは、『人のために何かしてあげたい』という気持ちや奉仕の心が大切です。誰かのために動いた結果が、自分の成果につながります。好奇心や探究心をもち、コミュニケーションをうまくとっていろいろな人とつながり、架け橋になっていただきたいですね」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 愛知淑徳大学に進学。たくさんの出会いと経験が成長の糧になる。

↓

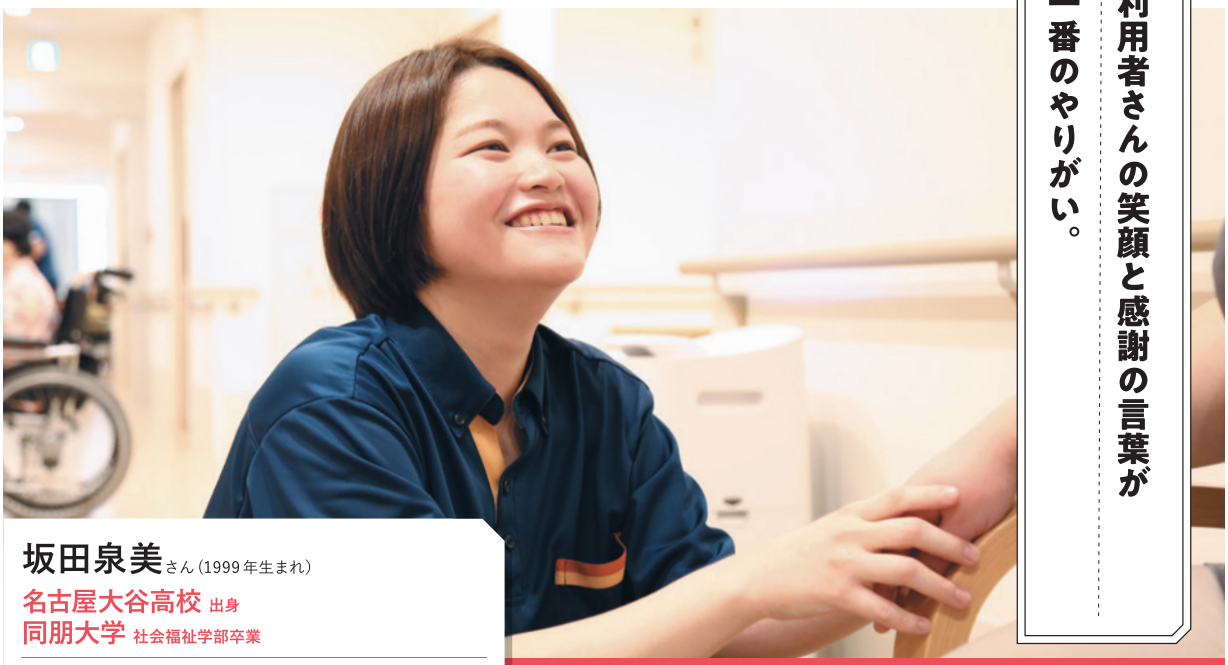
25歳 新卒入社した会社が倒産し、異業種からモデル業界へキャリアチェンジ。

↓

40歳 軸足をぶらさず、この道の先にある夢を広げていくために励む日々。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

利用者さんの笑顔と感謝の言葉が一番のやりがい。



坂田泉美さん（1999年生まれ）
名古屋大谷高校 出身
同朋大学 社会福祉学部卒業

社会福祉法人貴和会
名古屋市中村区日吉町22-2
https://www.kiwakai.org/

なるためには
●必要資格／特になし
●主な進路／高校卒業→福祉関係のことを学べる大学に進学→福祉施設に就職→介護職員

――学生時代

「中学生くらいのときから、ずっと福祉の道をめざしていました。母が看護師だったこともあり、人と関わって手助けをできるような仕事に就きたいという思いが強かったです。高校も福祉のコースに進学し、介護の基礎を学びました。介護実習にも参加し、利用者さんとの関わり方も学ぶことができました」

大学時代について教えてください。

「同朋大学に進学し、ソーシャルワーカーの役割について学びました。講義は、国家資格である社会福祉士を取得するための勉強が中心です。さまざまな福祉制度や児童福祉法などの法律、介入の仕方などを学びました。実習では、利用者さんと家族、家族と施設など、誰かと誰かのあいだに入って情報交換をしたり調整をする流れを学びました。社会福祉士を取得し、卒業後、社会福祉法人貴和会に就職しました」

――仕事について

「最初は先輩についてもらい、食事、排泄、入浴など一通りの介助の仕方を学びました。先輩からは、『人の命に関わることが多いから、些細なことでもわからないことはとりあえずすぐに聞いて』とよく言われました。半年経験して、ようやく仕事に慣れてきた感じです。最初に苦労したことは、車椅子のつけ方など身体状況に合わせた介助の仕方。麻痺がある方とない方では対応も違いますし、経験しながら覚えていく感じでした」



現在の仕事内容を教えてください。

「介助を必要とする利用者さんの生活を支援する仕事です。具体的には、朝起こすところから始まって、服の着替えやトイレ、歯磨き、外出、入浴、食事など、利用者さんの状況に合わせて介助をしていきます。私が担当するフロアは、認知症や車椅子の方が多いです」

働くうえで心がけていることは？

「意識しているのは声のかけ方です。利用者さんとの関わりのなかで、『だめ』といった否定的な強い言葉は使わないように心がけています。たとえば、調理中に利用者さんがつまみ食いしようとしたら、『だめだよ！』と言うのではなく、『いま作ってるから待っててね～』と言って手を握ってソファーまで連れていくようにしています」

――やりがい

「『ありがとね』と、利用者さんから笑顔で言われることが一番のやりがいです。その言葉に尽きますよ。経験を積み、一つひとつの介助のスピードが早くなりましたし、仕事がスムーズに進められるようになって自身の成長も実感しています」

――メッセージ

「もちろん介助技術や知識をもっていると役に立ちますが、仕事を始めてからでも教えてもらえる体制が整っているので安心ですよ。利用者さんの些細な表情や動きなどから、調子のいい悪いを敏感に察することができる先輩がいるのですが、私もいろいろなことに気づけるようになりたいです。そのために、さまざまな経験を積んで自身を成長させています。高校時代は、たくさん友達と遊んでください。そのときやりたいと思ったことをやるのが一番ですよ！」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 母が看護師だったこともあり、福祉関係の仕事を志す。

↓

22歳 同朋大学に進学し、福祉制度や法律などを学ぶ。

↓

23歳 ポジティブな声かけを意識し、利用者さんの生活を支援する。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com

一つひとつの行動を正確におこない、みなさんの当たり前の生活を支える。



石川拓也さん（1990年生まれ）
名古屋市立名古屋商業高校 出身

東海旅客鉄道株式会社
名古屋市中村区名駅1-1-4 ＪＲセントラルタワーズ
https://jr-central.co.jp

なるためには
●必要資格 / 動力車操縦者運転免許　※入社後に取得
●主な進路 / 高校または大学を修了→鉄道会社に就職

――学生時代

「野球部に所属し、部活に熱中した高校時代でした。日々の厳しい練習を通して感じたのは、つらくても逃げずにやり遂げることで充実感を得られるということ。仲間と切磋琢磨しながら引退まで部活に励んだことが思い出に残っています。早く社会に出て自立したいという気持ちが強かったので、進学はせずに就職の道を選びました」

就職先を選んだ決め手は？

「まず第一に『誰もが知っている大企業がいい！』と思っていました。説明会で列車運転士の話を聞いて興味をもったのがＪＲ東海を志望したきっかけです。純粋にかっこいいと思いましたし、まさか自分が列車を運転できる道があるなんて想像もしていなかったので、挑戦してみようと思いました」

――仕事について

「1、2年目は駅係員として、きっぷの発売、改札業務、乗り換え案内など駅に関わることすべての仕事を経験しました。その後、車掌を3年経験し、列車運転士になるための研修が始まります」

運転士になるための方法とは？

「まず、研修センターで学科の勉強をします。運転法規から、車両構造や線路に関すること、エンジンに関することなど幅広く学びました。学科試験に合格すると、半年間の見習い期間が始まります。大ベテランの先輩と一緒に乗務し、路線を覚えたり運転方法を覚えたりしました。先生が培ってきた知識や技量を半年間で吸収するのは本当に大変でしたね…。その後、実技試験に合格すると**動力車操縦者運転免許**を取得でき、列車運転士として働くことができます」



仕事内容を簡単に教えてください。

「みなさんの当たり前の生活を支える仕事です。旅行、通勤、通学などで利用していただくお客様を、安全に時刻通りに目的地までお運びします。安全を第一に、定時運行も大切にしています。その日の天候や前の列車との距離感など、いろいろなパターンを想定して運転をしています。すべての行動が安全運行に結びつくと考えて、一つひとつの行動を正確にすることが大切。その積み重ねが安全につながると思います」

――やりがい

「車掌時代はお客様とのふれあいがやりがいにつながっていましたが、いまは世の中の人の生活を支えていることに誇りを感じています。あとは、先輩に認められ、列車運転士としての使命をまっとうできたときにもやりがいを感じます」

――メッセージ

「この仕事は、物事を愚直にやり遂げることのできる誠実な人に向いています。ひとつのことを極めるため、能力研鑽に励むことも大切ですね。学生時代は、とにかくいまを全力で楽しんでほしいです。その体験の一つひとつが社会に出たときの活力になると思います。あとは、結果が出なくても、ひとつのことを最後までやりきる心を身につけてほしいです。運転士の研修は大変でしたが、私は常にあきらめない気持ちをもって取り組んでいたので乗り越えることができました」

ありがとうございました。



自分年表

18歳 部活に励んだ高校生活。卒業後、東海旅客鉄道に就職。

↓

24歳 駅員を2年、車掌を3年経験。列車運転士の研修を受ける。

↓

31歳 安全運行、定時運行を心がけ、世の中の人の生活を支える。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
http://amb100search.com